



2022

新春特集

誰もが豊かで便利に 安心して暮らせるまち スーパースマートシティ に向けて

本年が皆様にとって、明るく幸多き一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。
市政運営においては、施策・事業に着実に取り組み、本市がさらに発展していけるよう、市民の皆様と一緒に汗をかき、全力で取り組んでまいります。



2021年を振り返って

昨年は、依然として猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の変異株と闘う厳しい1年でありましたが、コロナの収束の見通しが立たない困難な状況の中で開催された「東京2020オリンピック」では、本市にゆかりのある選手たちが活躍され、その姿は、多くの人が勇気や感動をもたらしました。

このような中、本市では、新型コロナウイルス接種が本格的に進み、医療従事者の皆様のご尽力により、令和3年10月末時点で、接種率を8割に到達させることができました。

また、本市の地域経済を支える中小企業を支援するため、国や県の支援の対象とならない企業に対する市独自の支援金の支給などの経済対策を行いました。現在、感染状況が落ち着いてきていることも皆様のご協力があったからこそであり、心より感謝申し上げます。

未来都市の実現に向けた取り組みでは、地域独自のサービスを受けられる全国初の交通系ICカード「tottra」の導入やtottraを使った上限運賃制度の開始、LRT車両の愛称を「ラ

イトライン」に決定し、車両を初披露するなど、さまざまな事業を着実に進めてまいりました。

さらに、県内初の取り組みとして、再生可能エネルギーの地産地消を推進する地域新電力会社「宇都宮ライトパワー」を設立し、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言するなど、環境に優しい都市としてスタートした年でもありました。

そして2022年へ

新型コロナウイルス感染症は、新たな変異株の出現など、引き続き予断を許さない状況にあります。

さらに、人口減少、少子・超高齢社会が本格化する中、本市が持続的に発展していくためには、全国から最も選ばれるまちづくりを進めていく必要があります。

そのため、引き続き、市民の皆様の安全・安心を最優先に、感染拡大防止と社会・経済活動の両立を図ることに邁進してまいります。

また、多様な先進技術を取り入れた公民連携・協働を推進し、100年先も輝き続けられる都市となるよう、これからも全力で取り組んでまいります。



スーパースマートシティ

👁️ 目玉事業をご紹介します

本市では、NCC(ネットワーク型コンパクトシティ)を土台に、「地域経済循環社会」「地域共生社会」「脱炭素社会」の3つの社会が、「人づくり」の取り組みや「デジタル」技術の活用によって発展する、100年先も誰もが豊かで便利に安心して暮らせるまち「スーパースマートシティ」を目指しています。

「デジタル」を積極的に活用したまちづくり

あらゆる分野でのデジタル技術の活用

市民などがデジタルの活用に向けた一歩を踏み出せるよう、デジタルに関する相談や優れた取り組みなどを学ぶことができる「うつのみやデジタルスクエア」をWeb上に創設していきます。

また、官民連携コンソーシアムの「Uスマート推進協議会」において、さまざまな分野における先進技術を活用した社会課題の解決や新たな事業の創出を目指した実証実験に取り組んでいきます。

地域新電力や太陽光発電、冷熱エネルギーなどの本市が持つ資源を効果的に活用する取り組みや、市民一人ひとりの環境に配慮した行動の充実による

脱炭素社会

宇都宮ライトパワーの電力調達の開始

地域新電力会社「宇都宮ライトパワー」において、クリーンパーク茂原でのバイオマス発電などの電力を調達し、1月から市有施設などに供給を開始します。

さらに、令和5年3月には、世界に類を見ない取り組みとして、LRTの運行を地域内で生産した再生可能エネルギーのみで実現するなど、再生可能エネルギーの地産地消を先導していきます。



市民・事業者の皆さんと一体となって取り組む「脱炭素社会」の構築

9月に脱炭素社会の実現に向けた工程「カーボンニュートラルロードマップ」を策定し、行政だけでなく、市民や事業者の皆さんと一体となって取り組み、脱炭素化を加速させます。

その他、スーパースマートシティに関する取り組みについて、詳しくは、市HPをご覧ください。



ID 1025730

「NCC」の形成

＼拠点間を結び、誰もが快適に移動できるネットワークの形成／
LRT整備の推進、公共交通利用キャンペーンの実施



公共交通の要となるLRTの令和5年3月の開業に向けて、整備を着実に進めています。
また、公共交通のさらなる利用促進は、環境に優しく、外出機会の増加による健康増進や人の交流を通じたまちのにぎわいの創出など、SDGsに貢献できるため、市民や事業者と共に、オール宇都宮で公共交通を利用するキャンペーンを実施します。
なお、LRT整備の最新情報について、詳しくは、6・7ページをご覧ください。

宇都宮市が目指すまちの姿

次世代の育成や少子化対策などの「人づくり」

結婚支援・子育て環境の充実

市民の結婚から子育ての希望をかなえられるよう、若者の結婚に伴う住居費用の助成などの充実に向けて取り組みます。

また、保育所などの着実な整備に加えて、JR宇都宮駅周辺の局所的なニーズに対応した送迎保育の実施などにより、「年間を通した」待機児童ゼロを達成していきます。

生活をより豊かで便利にする原動力

次世代産業の集積・育成や起業などを支援するとともに、大谷やプロスポーツなどの地域資源を最大限に活用し、市内で人・モノ・情報が交流することで生まれる

地域経済循環社会

「うつのみやオープナー」の開催

世界の名だたる都市で開催される3人制バスケットボールの大会「FIBA3x3ワールドツアー」の開幕戦を「うつのみやオープナー」として誘致開催し、世界から多くの人々が訪れ、すべての3x3の選手が本市でプレーすることを夢見るような、世界に誇れる「3x3のまち宇都宮」を目指します。

プロスポーツチームと連携したまちづくり

「スポーツ」を本市の貴重な資源と捉え、スポーツを活用したまちづくりをより一層推進するため、本市を代表するプロスポーツチームとの協働・連携を強化します。



地域で生活するさまざまな人たちの問題を、地域の住民や団体などが「我が事」として考え支え合うとともに、医療・介護・福祉などの多様な機関を分野を越えて「丸ごと」つなげていく取り組みなどによる

地域共生社会

子どもの健やかな成長に向けた支援の充実

子育て家庭が身近な地域で安心して子育てできるように、親の子育てに関する相談支援や子どもの学習・生活支援を行う「親と子どもの居場所づくり事業」を本格的に実施し、異なる年齢の子どもたちの交流やさまざまな体験機会を提供する「子ども食堂」への支援を充実させていきます。

さらに、医療的ケアが必要な子どもでも、安心して必要な保育サービスが利用できる環境整備に取り組んでいきます。



暮らしやすく魅力ある拠点の形成／JR宇都宮駅東口地区の整備の推進

11月には、「NCC」の核となるJR宇都宮駅東口地区において、交流拠点施設や交流広場の供用開始を予定しています。地区全体のまちびらきの後は、これらの施設を活用したMICE（※）の開催などを通して、交流とにぎわいの創出や地域経済の活性化などを図っていきます。

ゆうあいひろばをリニューアル

4月には、子育て家庭が街なかの屋内で安心して遊べるよう、ゆうあいひろば（馬場通り4丁目・うつのみや表参道スクエア6階）に、大型アスレチックや創造性を育む遊具を設置し、フロア全体をリニューアルオープンします。

まちづくりの基盤となる



完成イメージ